

2006年4月12日

宇部興産株式会社

ポリイミドフィルムの第9期増設に着手

— FPD(フラットパネルディスプレイ)向け需要の急増に対応 —

宇部興産(株)(社長:田村浩章)は、液晶テレビやプラズマテレビなど薄型テレビ向けの急激な需要増加に対応して、ポリイミドフィルム(商品名:「ユーピレックス」)の第9期増設に着手した。2007年10月稼働を目指して山口県の宇部ケミカル工場内に設置、これによりユーピレックスの生産能力を20%アップさせる。併せて原料モノマーの手直し増強も実施する。

ポリイミドフィルムは、耐熱性に優れ、電子情報関連機器の基板材料などに使用されている。携帯電話、パソコン、デジタル家電などの市場拡大や高機能化に伴い、今後も年率15%以上で需要が拡大すると予測される。

宇部興産のポリイミドフィルムは、抜群の寸法安定性を有することから、LCD(液晶表示装置)やPDP(プラズマディスプレイ装置)分野向けを主体としたTAB(Tape Automated Bonding:IC自動実装方式)用途で圧倒的なシェアを占め、業界標準を確立している。一方で、大型液晶分野においてはパネルの高精細化に伴いCOF(チップ・オン・フィルム)方式の比率が高まりつつあるが、この用途においても「ユーピレックス」はユーザーから高い評価を獲得している。現在、今年9月の商業運転開始を目指して第8期設備を建設中であるが、昨今の液晶、PDP市場の急速な拡大に伴い、今後も大幅な需要増が見込まれることから、積極的に生産能力を増強し、安定供給に努める必要があると判断した。

今後はさらに、携帯電話などのモバイル機器やデジタル家電の市場拡大および高機能化により、フレキシブル銅張積層板(2層CCL)用ベースフィルムとしての需要も大幅な増加が見込まれる。また、FPC分野においては、多層化やモジュール化が進むため、寸法安定性に優れ、適度な弾性率を持つ宇部興産のポリイミドフィルムへの期待が高まっている。

こうした市場環境から、宇部興産では第10期以降のポリイミドフィルム設備および原料モノマー設備の増設についても既に検討を進めており、今後も製品供給に万全を期すると共に、重点事業としての事業基盤の強化・拡大を図っていく。

本件に関するお問合せ先

宇部興産株式会社 IR広報部

〒105-8449 東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーバンスN館

TEL: 03-5419-6110

以上